

「計量分析でレポートを書く」

■文章で報告できるように

- ・統計分析ソフトを使えるだけでは、他人に調査結果を伝えることはできない。
- ・結果を「文章で」報告できるようになることが大切。

■分析レポートの定式

とにかく、「目的・方法・結果・考察」の順番に書く。

・目的

はじめに必ず何を調べようとしているのかを説明する。

ただ「〇〇を調べる」と書くだけでなく、それを調べることの意義、自分の仮説を書くとき意図が伝わりやすいし、自分でも何をしたいのか整理できる。

・方法

その目的を果たすために、どのような分析をするのかを説明する。

「〇〇分析をする」「〇〇の平均値を××別に比べる」「〇〇と××でクロス表を作る」など、具体的に記す。

調査全体の説明（いつ、どこで、誰が、どうやってデータを集めたのか等）と、分析に使う質問項目、その加工の仕方（リコーディング、分析対象の限定等）など、細かい手続きも示す。

それを読めば他人が同じ分析結果を再現できるようにしなければならない。

・結果

使用する変数の基本統計（度数分布、または平均と標準偏差など）はまず示す。

その上で、中心的な分析（〇〇分析など）の結果を示す。

グラフや表を示して、読み取りを説明する、ということを繰り返すことが基本。

ややこしい読み取りは GEE アプローチが有効。

だいたい (Generalization) : まずふつうの言葉で大雑把にわかったことを書く

数値例 (Example) : 上のことをどこから読んだか数値例を示す

但し書き (Exceptions) : ちょっと違う点を言い訳する

・考察（とまとめ）

「結果」は誰が書いても同じはずの客観情報を書くのに対して、「考察」では書く人によって異なるような（ある程度主観が入った）内容を書く。

目的にひるがえって、分析結果はどういう意味を持つのかを考える。

目的は果たせたのか（仮説は支持されたのか）

仮説が支持されなかったとすれば、理由をどう想像するか

この結果は社会の見方（人々の行動の意味付け）をどう変えると思うか

今後、さらにどんな分析が望まれるか

調査方法やデータの品質、分析方法に問題はなかったか 等々

最後に、全体（何をしようとして結果がどうだったのか）をもう一度まとめる。

簡単な分析レポートの例

(※たった1つの簡単な関心だけで、これだけ書くべきことがあることを実感してほしい。この例は多変量解析ではないので、回帰分析やクラスター分析、因子分析ではもっと書かないといけないことがある。まともな分析レポートは絶対に2000字では収まらないはず)

「映画館によく行く学生は誰なのか」

社 15-XXXX 山田太郎

(※本当はタイトル等は別途表紙を付ける)

1. 目的

このレポートでは、大学生の中で映画館によく行くのは誰なのかを明らかにしたい。テレビが高性能になったため、現在の映画製作は映画館での収入よりもDVDの販売や映像配信の収入をあてにしていると聞く。しかし、実際には映画館が次々につぶれたりはしていない。その理由は、映画館が無難なデートスポットであり、そこに行くことそのものに魅力があるからではないだろうか。そこで、「彼氏・彼女がいる大学生が映画館によく行っている」という仮説が正しいかどうか、調べてみることにする。

(※ここで本当は文献を引用して、もっと社会的な意義を説得的に示すことが望まれる)

2. 方法

分析には「大阪の大学生の生活・意識に関する比較調査」のデータを用いる。この調査は、2008年9～12月に大阪の4つの大学の学生347名を対象にして、大阪商業大学社会調査研究会が行った集合調査である。集合調査のため回収率は算出できない。複数の調査テーマ(大学生の交遊・将来設計・マナー)を並列させたオムニバス形式の質問紙であるが、大学生の交遊に関する調査項目として映画館に行く頻度が含まれている。

映画館に行く頻度は、Q14(a)で次のように尋ねられている。

Q14 次の事柄について、1年間にどのくらい行くことがありますか。

(a) 映画館

1 10回以上 2 5～9回 3 3～4回 4 1～2回 5 数年に1回 6 全く行かない

また、彼氏・彼女の有無についてはQ12で次のように尋ねられている。

Q8 現在、お付き合いしている人(彼氏、彼女)はいますか。

1 いる 2 いない

この2つの変数でクロス表を作成し、彼氏・彼女の有無と映画館に行く頻度の関連性を調べよう。ただし、回答者の数があまり多くないので、映画館に行く頻度を「年に5回以上」「年に1～4回」「年に1回より少ない」の3つにリコーディングしてクロス表を作成することにする。

3. 結果

映画館に行く頻度の分布は、図1のとおりである。年に1～2回か3～4回行く学生が多い。2つ合わせると52%と半数以上になる。ただし、なかには10回以上行く人や全く行かない人もそれなりにいる。彼氏・彼女がいる人の割合は、図2のとおり3分の1程度である。

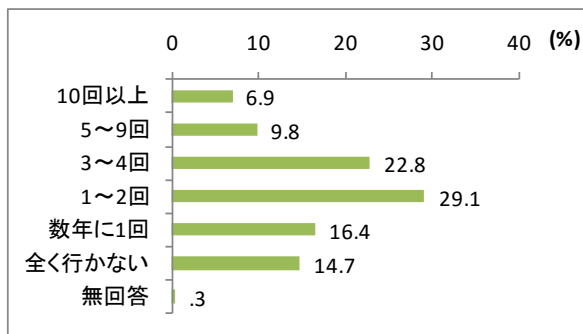


図1 映画館に行く頻度 (n=347)

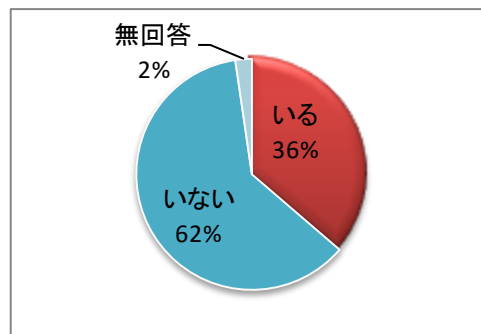


図2 彼氏・彼女の有無 (n=347)

彼氏・彼女がいると映画館によく行くのかどうか、クロス表で調べた結果が表1である。明らかに彼氏・彼女がいる方が映画館によく行っていることがわかる。どちらの場合も年に1～4回程度がおおよそ半数で多数派であるが、彼氏・彼女がいる学生はよく行く（年に5回以上）場合が3割近くもいるのに対して、彼氏・彼女がいない学生はその割合が1割もない。

表1 「彼氏・彼女の有無」と「映画館に行く頻度」のクロス表

	Q14a 映画館に行く頻度			
	年に5回以上	年に1～4回	年に1回より少ない	合計
Q12 彼氏・彼女の有無				
いる	37 29.4%	67 53.2%	22 17.5%	126 100.0%
いない	18 8.5%	112 52.6%	83 39.0%	213 100.0%
合計	55 16.2%	179 52.8%	105 31.0%	339 100.0%

4. 考察とまとめ

以上のように仮説は支持された。映画館が学生の無難なデートスポットとしての機能を果たしているとすれば、昨今の絶食系などと呼ばれる傾向は、……

ただし、「彼氏・彼女がいる方が映画館によく行く」ことのみかメカニズムは十分に検討されていない。共通の原因による見せかけの関係である可能性も否定できず、……

一方、彼氏・彼女がいなくても映画館によく行く人も9%程度いることは注目に値する。これはどのような人なのか。お金の使い方全体から今後さらに分析を……

(※多様な考察を整理して示す。ここでも本来は文献との関わりを示すことが望ましい)

最後に、もう一度このレポートの内容をまとめておくと、以下のとおりである。このレポートでは、大学生へのアンケート調査を使って、……